令和７年度 東京都立杉並総合高等学校 学校経営計画

校　長　　藤本　晋哉

１　目指す学校像

（１）スクール・ミッション

キャリア教育、環境教育、国際理解教育を基に、総合学科としての多彩な選択科目からなるカリキュラムを通じて、最良の自己実現に向けて自ら努力し、優れた国際感覚をもち、生涯を通じて学ぼうとする意欲と能力をもつ人間を育成します。

（２）スクール・ポリシー　「志を世界に繋ごう」

ア グラデュエーション・ポリシー

① 最良の自己実現を目指して

生徒が、自己理解を深め、個性の伸張を図るとともに、将来の「なりたい自分」に向かって進んでいく力を育てます。

② 国際人を目指して

生徒が、自他の生命やルール・マナーを尊重するとともに、優れた国際感覚を持ち、異文化を理解し受け入れる力を育てます。

③ 生涯学習

生徒が、主体的に生きる力を身につけるとともに、自らの適性や興味・関心を自覚して、生涯を通じて学び続ける意欲と力を育てます。

イ カリキュラム・ポリシー

① 生徒が、論理的な思考と自分独自の判断ができ、相手の立場にも配慮しながら的確に表現することができる力をつけられるように、主体的・対話的で深い学びの実践を重視します。

② 生徒が、多様な価値観や職業観に触れながら、自分の生き方を考えられるように、総合的な探究の時間を含めて、地域や社会との繋がりの中で体験的に学習する取り組みを重視します。

③ 生徒が、時を守り、場を清め、礼を正す姿勢を身につけられるように、始業時刻を遵守し、学習環境を清潔に保つ美化活動に力を注ぎ、身だしなみを始めとする生活の規律を維持することを目指した、毅然とした生活指導を行います。

④ 生徒が、体力の向上を図るとともに、社会へ出たあとも進んで学び続けようとする意欲・姿勢の基盤となる集中力、持続力を身につけられるように、授業や部活動、学校行事等特別活動に力を入れます。

ウ アドミッション・ポリシー

① 本校の多彩な選択科目から自分の「時間割」を作り、しっかり学習し、自分の進路を実現しようとする生徒を求めます。

② 授業や部活動、学校行事などに意欲的に取り組み、充実した高校生活を送りたいと望んでいる生徒を求めます。

③ 時間を守り、身だしなみを整え、高校生として責任ある行動を取ることができる生徒を求めます。

④ 海外に興味と関心をもち、将来は世界を舞台に活動したいと考えている生徒を求めます。

２　中期的目標と方策

（１）基礎学力を向上させ、生涯を通じて学ぶ意欲と能力を育成する

毎日の授業を大切にして、習熟度別や少人数編成による授業、年間をとおした補習・講習を計画的に行い、生徒の基礎学力の向上と進路希望の実現を図る。また、ＩＣＴを活用した授業や実験・観察等の体験的・問題解決的な学習、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業等、主体的・対話的で深い学びを具現化するために、教科の特性に合わせた授業方法や教材を工夫し、実施する。さらに探究活動を深め、課題研究の内容をより充実させる。また、外部の授業研究に参加するなどして、授業力の向上に教員一人一人が取り組む。

生徒会や各委員会活動等、様々な教育活動に主体的に参加させ、達成感を味合わせることにより、ワンランク上を目指す気概を醸成する。また、コミュニケーション能力をはじめ、総合的な力を育成して、一人ひとりが自分の進路希望を実現できるように、「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」を礎にしたキャリア教育の充実を図る。

（２）社会との関わりを意識し、人として成長するための良い習慣を身に付けさせる

ルールを遵守する意識と他者を尊重し自己を大切にする意識、そして自らの進路を開拓し、社会に貢献しようとする高い志を育成するために、全教職員が、深い愛情をもって生徒一人ひとりの理解に努め、生徒と良好な人間関係を築くことにより、効果的な生活指導を可能にする基礎づくりを行ったうえで、フォローし合いながら、状況に即した指導、粘り強い指導を行う。

地域と連携した防災教育や体験活動をとおして、自助・共助といった防災に関する基本的な知識や行動を理解させる。さらに、生命を守る力、助け合う力、災害時に役に立つ力を身に付けさせ、災害時に地域の一員として率先して行動できる力を育成する。

海外修学旅行の実施、在京外国人生徒等入学者選抜の実施、海外の高校生を招いての交流会の実施、留学生の派遣及び受け入れの推進等により、全ての生徒が、異なる文化を受容する意識、自らの文化を発信する意識、そして、国際化が進む社会に貢献する意識を向上させ、将来的に国内のみならず、グローバル社会で活躍できる人材を育む。

（３）「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づき、特別活動の充実を図り体力を向上させる

学校行事や各部活動の準備・練習等の実践、特別活動と学業の両立を重視し、自分の目標の達成のために必要となる計画・遂行・振り返り・修正する力を養えるようにする。また、学校への帰属意識をもたせるために、適切に生徒に寄り添った指導を行う。

また、学校にいる時間だけではなく、家庭にいる時間においても栄養・運動・休養の三原則を基に、生活のリズムを守ろうと努めたり、健康の保持増進と体力向上を図ろうと、率先して体を動かすように努めたりするなど、活動的な生活を送ることで心地よさを感じることができるよう指導する。

３　学校経営計画

（１）学校経営・組織マネジメント

ア　学校組織マネジメントを意識した学校経営	① 企画調整会議を中心に、各分掌・学年の様々な業務の「見える化」を図り、全ての教職員による学校の取組内容の把握及び情報共有を促し、協働体制を確立する。 ② 学校経営計画と個人目標の整合性を図ることにより、課題の共有と学校運営への参画意識を醸成する。

	③ 本校のミッションや特色ある活動の遂行に向けて、組織として協働しながら課題解決に取り組めるように、計画的な人材配置と人材育成を行う。 ④ 中期的な計画の下、伸長させるべきと掲げる特色ある活動を明確にし、それに合致した予算編成ならびに執行を行う。 ⑤ 教職員が、自分のやりたい仕事に、存分に時間を割けることを考慮した働き方改革を推進する。 ⑥ 教育公務員としての服務規律の理解と自己点検を促すための校内研修、学校事故を未然に防ぐための校内研修を実施する。
イ　カリキュラム・マネジメントを意識した教育課程の編成	① 生徒のニーズに的確に対応し、自己実現の後押しになる教育課程を編成するために、ＰＤＣＡを繰り返しながら、教育課程委員会を中心にして、組織的に教育課程の改訂を行う。 ② 評価する側とされる側の双方が納得でき、授業改善と学習改善に、各々意欲的に取り組み続けられるよう、観点別評価の基準を見直し続ける。 ③ 生徒が、自己実現に向けて、意欲の高まる科目選択ができるように、各講座の配置、受講者数、開閉講の決定時期を、教育課程委員会で共有し、組織的に協議・決定する。
ウ　Tokyo スマート・スクール・プロジェクト（学び方・教え方・働き方の三大改革）の実現	①　ＩＣＴを効果的に活用し、密度の高い教育活動を行うため、Microsoft Office365 を活用した、学校評価やアンケート集計等を実施する。 ② 働き方改革により有給休暇１５日以上の取得を推奨する。 ③ 産業医と連携した健康状況の把握と自己管理の支援を行う。

（2）学習活動

ア　「東京型教育モデルの実現」	① 生徒の思考力・判断力・表現力を高めることを意識した、主体的・対話的で深い学びを実践する。 ② 読書活動やビブリオ・バトルに係る取り組みも活用して、思考力・判断力・表現力を育成する。 ③ 上記の授業改善を推進するために、学校経営支援センターや各教科・科目の研究会が主催する、外部の授業研究の場への参加を督励する。 ④ Teams や Forms 等の Office365 と連動させて、一人１台端末を活用した授業を実践する。 ⑤ 採点処理や成績処理の負担を軽減させると同時に、分析結果を、生徒の学力向上に還元できるように、統合型校務支援システムを幅広く活用する。
イ　学力向上の源となる授業力向上に向けた組織的、継続的な取組み	① 科目各々の目的や、受講する生徒のニーズに合致した授業を実践する。 ② 授業のプロとして、寝かせない授業、他教科の学習をさせない授業を実践する。 ③ 観点別評価を含めた学習評価の規準の統一するためにも、「何ができるようになるか」といった単元の目標設定、授業で使用する教材、学習課題のレベルや量、定期考査問題などが、授業担当者間で共有された授業を実践する。

	④ 入学時からの学力の推移を定期的に観測することによって、課題をいち早く察知し、授業の改善や学習課題の提示など、科目担当者が共有して、その対応にあたる。 ⑤ 一人１台端末活用をはじめ、創意工夫しながら授業づくりを行っている教員を軸に、様々な実践例を共有する校内研修を、教員全員参加の下、実施する。
ウ　英語の４技能をバランスよく育成し、将来国際社会に貢献できる人材の育成	① オンライン英会話事業を効果的に活用して、「聞く」「話す」力を育成する。 ② ＪＥＴを活用して、現代英語として適切な表現ができる力や、的確な文章表現力を育成する。 ③ ＴＧＧ（Tokyo Global Gateway）を活用して、アウトプットする体験の場を設定する。 ④ 生徒の英語力を把握するために、海外学校間交流推進校の特典を活かして、英語の検定試験を実施する。
エ　個に応じた学習指導の充実	① 生徒個々の自己実現を目指して、少人数授業を実施する。 ② 日本語指導が必要な生徒においても、一般生徒においても、その学力や能力の向上に効果的であると言える、国語の習熟度授業を展開する。 ③ 外部人材を活用したものも含め、各種の土曜講習を実施する。 ④ Teams と連動させたｅラーニング・サービスを活用して、生徒個々の学力到達度や課題を把握するとともに、自主学習や反転学習を行えるようにする。 ⑤ 「課題研究」を作成させる際の個別指導において、時間割上の担当教員だけでなく、全ての教員が、その専門性を活かして、生徒のサポートを行う。

（３）進路指導

ア　ワンランク上を目指させる１学年からの系統的・組織的な進路指導	① 高校３年間を見通して、目的と内容、実施時期を精査しながら、外部と連携した進路ガイダンスを実施する。 ② 学習到達度テストや模擬試験の結果について、各生徒の情報を、担任団のみならず、教科担当者も共有し、生徒の進路希望実現のための対策を立てられるように、教科担当者の参加を強く促した分析会やケース会議を開催する。 ③ サクセス・プランニングにおいて、自己理解、職業観の育成、将来に繋がる科目選択指導を充実させる。
イ　各種の講習の充実	① 各教科で講習の内容やバリエーションを検討し、毎年度、同様な講習が開講できるように、進路相談部を中心に講習の組織化を図る。 ② 予備校と連携した英語の土曜講習と連動させ、専任教員による他教科の講習も、定期的・継続的に実施する。
ウ　面談の充実	① 生徒のみならず、保護者とも情報の共有化を図ることを目的にして三者面談を実施する。 ② 大学の一般受験を目指す生徒のモチベーションを下げさせないために、進路相談部を中心に、対象者を絞った定期的な集会や面接等を実施する。
エ　キャリア教育の重視	① 生徒が、入学から卒業まで、意欲的にキャリア教育に取り組んで、しっかりしたビジョンをもつことができるように、３年間のキャリア教育計画を、外部団体との連携を深めながら構築する。

	② 生徒が自分自身の興味関心と将来に関わることを題材にした「課題研究」に取り組めるよう、２年次後半から３年次にかけて、リサーチ・クエッションの設定や論文の添削など、外部機関も導入して、一貫した指導を実践する。 ③ 多様な大人と出会わせ、いろいろな価値観を生徒に知らしめ、自分の生き方を考えさせるために、「人間と社会」を始め、サクセス・プランニングの中で多様な体験活動を実践する。
オ　日本語指導が必要な生徒への支援	①　日本語指導が必要な生徒が、その進路希望を実現できるように、進路相談部内に担当者を置き、担任団とも連携して、進路指導を行う。 ② 上記の目標を達成できるように、日本語指導が必要な生徒に対し、学校生活や授業における適切な配慮や支援を推進する意識や方策を共有するために、全員参加の下、校内研修を定期的に実施する。

（４）生活指導

ア　特色ある生活指導の充実	① 深い愛情をもって生徒一人ひとりの理解に努め、生徒と良好な人間関係を築き、教員相互がフォローし合って、状況に即した指導、粘り強い指導を行う。 ② 年間行事に位置づけられた個人面談期間を利用して、まずは担任団が、学年生徒と良好な人間関係を築き、効果的な生活指導を可能にする基礎づくりをする。 ③ ノーチャイム制など、時間の自己管理を重視していることから、遅刻指導を始めとする授業規律を確立するための指導を徹底する。
イ　生徒の生命を守るための指導の徹底	① 生徒に対して、自転車乗車時のヘルメットの着用について、強制ではなく、その主旨を理解させたうえで、着用率を上げるために、保護者や外部機関とも連携し、工夫しながら、粘り強く指導に取り組む。
ウ　体罰根絶といじめの事前防止・早期発見・早期対応の徹底	① いじめ防止アンケートを年３回、体罰防止アンケートを年１回実施するとともに、特に部活動において顧問教諭と外部指導員とが連携して体罰を根絶する体制を構築する。 ② アンケートの結果により、いじめが発覚した場合には、いじめ防止対策委員会を速やかに招集し、初動対応によって重大事案にならないようにスクール・カウンセラーを含めた全教職員で行う組織的な対応を行う。

（５）特別活動・部活動

ア　学校行事・生徒会活動を通した生徒の主体性の育成	① 三大行事（体育祭・杉総祭・合唱祭）において、生徒が、達成感、自己肯定感を得られるように、生徒の自主性を生かしながらの企画・運営を行う。 ② 生徒会や委員会を中心にして、特別支援学校や小学校との連携事業や地域への社会貢献活動を行う。
イ　部活動を通した健全育成	① 勝利至上主義に陥ることなく、生徒が達成感を得られることと部活動と学業を両立させることを大切にした、文化・スポーツ推薦に頼り過ぎない部活動の運営を行う。 ② 部活動において、生徒一人ひとりが、それぞれの特性に応じて、自分の存在を示す場を創出する。

	③ 「部活動に関する活動方針」等に基づき、週２日以上の休養日を設定するとともに、短時間で最大限の効果を上げられるよう活動方法等の工夫を行う。 ④ 地域の行事に参加するなど、生徒の自己肯定感を高められる社会貢献の機会を創出する。
ウ 「Tokyo Active Plan for students」を踏まえた体力向上	① 体育の授業や体育的行事、部活動を充実させることにより、体力テストの結果を向上させる。 ② 運動を楽しみながら、自らの体力を高めていく習慣づけの指導を行う。

（６）安心・安全な環境作り

ア　心身の健康と安全に対する意識を高めた健全育成	① 地域と連携した総合防災訓練を行うことで、自助・共助の精神を培う。 ② 自転車使用に関する安全教育指導を行い、自転車通学者の保険の全員加入やヘルメット着用の指導を実施する。 ③ 発達障害等、特別な支援が必要な生徒に対して、合理的配慮に基づく適切な対応を実施するとともに、障害者への理解推進を図る。 ④ スクール・カウンセラーや特別支援教育コーディネーター、養護教諭と連携を図り、定期的に教育相談委員会を実施して、生徒のメンタル面でのサポートを行う。
イ　危機管理の徹底	① アレルギーや疾病のある生徒に関する情報を、校内で共有する。 ② 生命の危機に関する事故の発生が危惧される場合、スクール・カウンセラーを始め、医療機関や外部機関（児童相談所や子ども家庭支援センターなど）と連携して方策を決め、教職員全員全員参加のケース会議で共有する。 ③ 学校事故の未然防止と事故初動対応の重要性を理解し、授業や部活動の体育活動中の事故を未然に防止するとともに、万一事故が発生した際には、速やかな報告・連絡・相談体制によって、被害の最小限化を図る。
ウ　保護者との良好な「顔の見える」関係づくり	① 学校と保護者が情報共有して、方向性をひとつにできるように、年次ごとに年２回以上の保護者会を開催する。 ② 進路選択に向けた不安を取り除くための三者面談を３年次全員に実施する。 ③ 学校評価アンケートの結果を公表することにより、課題や方策を共有して、連携できるようにする。

（７）募集・広報活動

ア　組織的な募集活動の充実	① 中学校や学習塾、日本語学習指導に係るＮＰＯ団体を効率的に訪問し、本校の特色をＰＲする。 ② 年３回以上の学校説明会（合同説明会を含む）及び夏季休業中の学校見学会や部活動体験会を実施する。 ③ その際、学校行事として、全教職員が必ず関わりをもつようにし、全校体制の取組みとする。 ④ 近隣の公立小・中学校への出前授業や説明会、交流事業を計画的に実施する。

	⑤ 在京外国人生徒を対象にした学校説明会を実施して、ミスマッチを防止すると共に、本校の求める生徒を確保できるように努める。
イ　ホームページを中心とした広報活動	① 学校のホームページを迅速に更新し、積極的に情報発信する。 ② 授業担当者や行事担当者、部活動顧問と連携して、学校活動に関する情報を積極的に発信する。

（8）経営企画室体制

ア　学校経営への参画	① 学校経営計画に基づき、学校経営に参画し、工夫を凝らした経営企画室運営を行う。 ② 教員と協働し、積極的な経営参画を図る。 ③ 働き方改革の一環として「費用対効果」と「時間対効果」を意識し、ＩＣＴを最大限活用して業務を遂行する。 ④ 学校の総合窓口として思いやりの心と品格を重んじ、全校の機能をスムーズに調整する。 ⑤ 業務全般を理解すると共に、担当部署のスキルアップと課題改善の意識を常にもち、組織的に業務改善を図る。 ⑥ 学校行事や保護者会活動等にも積極的に参画する。
イ　適切な予算執行	① センター執行率も考慮しながら、限りある自律予算を有効に活用できるように差配する。 ② 教員に理解を求めながら、中・期的な見通しに立った予算編成をする一方で、状況を鑑みて、バランスのとれた思いやりのある執行を行う。 ③ 施設管理において委託業者と連携し、適切な運営を図る。
ウ　関係団体との連携	① 生徒活動を活性化させるために、PTA と積極的な連携を図る。 ② 生徒活動を活性化させるために、同窓会と積極的な連携を図る。

4　重点目標と方策・数値目標

重点目標	具体的な数値目標		R5 達成数値
ア　Tokyo スマート・スクール・プロジェクト並びに「東京型教育モデル」の実現	① 主体的・対話的、深い学びの実践 ② 一人１台端末を活用した授業実践 ③ Office365 の活用実践	１００% ８０% １００%	９３% ７１% ９０%
イ　生徒が、授業以外に、自主的に学習を進める姿勢の醸成	① 授業以外の学習時間 60 分以上 ② 学校図書館の利用者の割合 ③ 学校図書貸出冊数の増加	７０%以上 ５０%以上 6冊／１人・年	６０% ２４% ５．７冊
ウ　組織的・計画的な進路指導及びキャリア教育の実践	① 進路相談への肯定的評価 ② 進路希望の実現の達成率 ③ 大学入学共通テスト受験者数 ④ GMARCH 合格者数	９０% ９８% ８０名 １０名	８３% ９７% ６２名 5名

	⑤「産・社」「人・社」「課題研究」の肯定的評価　９０％	８３％
	⑥ 外部人材を活用した取り組み　１８件	１６件
エ　生活指導及び安心・安全な環境づくりの実践	① 遅刻率（1 日平均）の改善　１．０人以下／ＨＲ	１，２人
	② 自転車通学の安全に係る全体指導　１５回	１４回
	③ 学校事故未然防止に係る校内研修の実施　3回	3回
オ　その他	① 海外留学生等の受け入れ　１３件	１２件
	② 学力検査最終応募倍率　１．８倍	１．７倍
	③ ホームページの更新回数　４００回	３７６回
	④ 東京都統一体力テスト　東京都平均以上	平均以上
	⑤ 杉総通信の年間発行回数　１１回	１１回
	⑥ 部活動参加率（1・2 年次）　９０％	８２％
	⑦ 月当たり定時外勤務時間が 45 時間超の教職員　０人	１０．８人